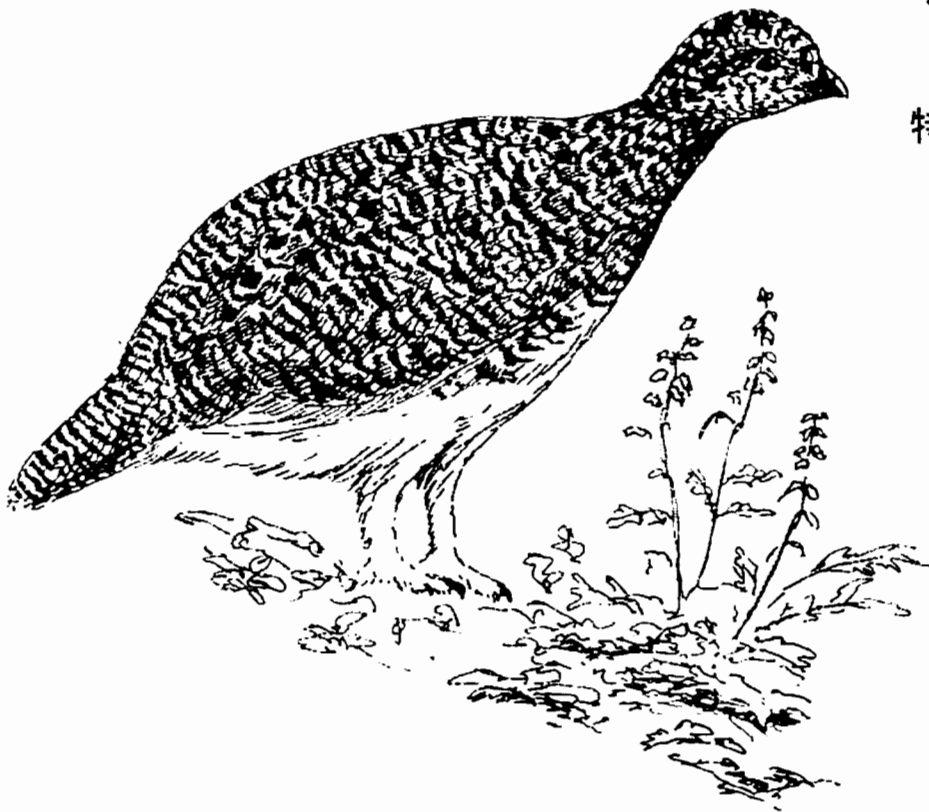


しらす川

第 55 号

特集：探鳥旅行



2007 年 8 月 日本野鳥の会 三重県支部

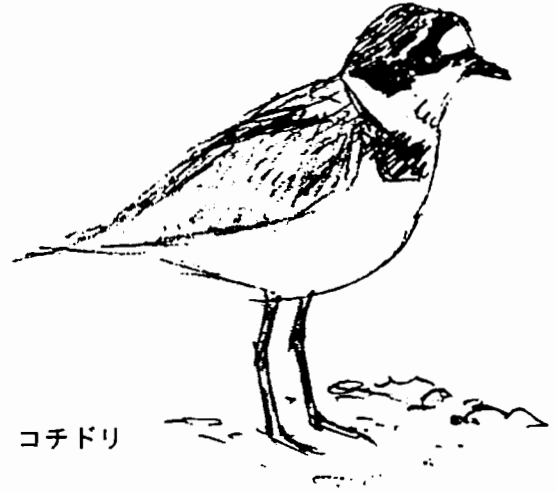
http://ww.geocities.jp/sirochidori_mie/

三重野鳥の会からの伝統

支部長 平井正志

杉浦邦彦前支部長の後をひきついで支部長になりました。思えば三重県に来て野鳥の会の会員として最初にやったのはシロチドリ繁殖の保護運動でしょうか？津市や河芸町の海岸でシロチドリの巣を探しました。巣をみつけるのには意外と時間がかかりました。でも、親鳥のしぐさをじっくり見ていると卵を抱いている鳥かどうか、わかるようになります。しかし、その頃、1990年代にみつけた20羽以上のヒナは今では夢のようです。今では同じ海岸で毎年数羽のヒナをさがすのがやっとです。しかし、それでもシロチドリはまったく繁殖しなくなるわけではありません。どこで繁殖した親鳥がやってくるのか、冬はどこですごしているのか、まだシロチドリでもわからないことがたくさんあります。

野鳥を見ているとやりきれない気持ちになることがたくさんあります。木曾岬干拓地は運動公園にするとして、現在北半分に盛り土をされています。チュウヒが繁殖するすばらしい場所、三重県最後の野原であったのに、ほんとうに運動公園の方が良いのでしょうか？以前オオタカがよくとまっていた、その木の下でオオタカに襲われたらしいタシギの尾羽を見つけた安濃川の堤防のエノキはいとも簡単に切り倒されて、桜が植えられてしまいました。今はレジャーのために自然が壊されています。かつて四日市、桑名、鈴鹿に広がっていた広大な干潟の海岸はことごとく埋め立てられ、もう伊勢湾岸で自然海岸はわずかしが残っていません。その中でも自然保護運動で



コチドリ

守られた例はあります。藤前干潟は多くの人々の努力で守られました。私は今でも保護運動をやるべきかどうか迷います。しかし、我々がやらなかったら、誰が気づくのでしょうか。破壊されてしまってからでは取りかえしようがありません。コウノトリやトキがそうであったように、皆が気づいた時にはもはや手遅れになる場合があります。やはり自然保護運動は自然を知り、楽しむものの責務なのかもしれません。自然保護運動もまた三重野鳥の会時代からの伝統なのでしょう。ほんとうはボーッと鳥を見ている方が私は好きなのですが。

さて、中西悟堂が1934年に富士山麓で探鳥会を催し、野鳥の会を始めたのも野鳥と自然を楽しむためです。野鳥のことを知りたい、野鳥を楽しみたいと思って三重県支部に入ってくる方がたくさんいます。もっと野鳥を楽しみましょう。カメラで撮るのもよいでしょう。スコープで心ゆくまで眺めるのもよいでしょう。囀りを楽しむのもよいでしょう。一句ひねるというのもあります。県内の鳥だけでなく、できれば県外までも出かけて、様々な環境で生きている鳥を自分の目で確かめたいものです。でもそれを企画し、実行するためには大変な努力が必要です。支部会員の皆さんも積極的に企画に、調査に、保護運動に参加していただませんか？そして、三重県支部をもっと楽しいものにしましょう。

目次

巻頭言 三重県支部からの伝統	1
表紙の言葉	2
特集 探鳥旅行	
戸隠旅行と植物	2
普正寺の森探鳥旅行	4
2007年度三重県支部総会	6
支部活動の記録	13
探鳥会報告	14
野鳥記録	19
編集後記	19

特集：探鳥旅行

戸隠探鳥旅行と植物

亀山市 伊藤多紀子

六月中旬、前日まで梅雨前線が本州の南に停滞し、2～3日雨を降らしていた。当日の天候が気掛かりだったが、快晴となり絶好の探鳥日和である。

関ドライブインから高速に入り、伊勢湾岸・中央自動車道・長野自動車道へと進む。

車窓からは右側に南アルプス、左側に中央アルプス（木曾山脈）があり、3000m級の山々は真白に雪をかぶり、雄大な景色を見ながら一路戸隠へと。

戸隠は野鳥の宝庫として、古くから知られている。又古代から信仰の山であり、戸隠神社が山裾に鎮座する。この広い森を村人達が守り続けてきたから現在の戸隠森林植物園として存在する。そして我々が利用させていただく事ができる。又道路一つ隔てたところには、越水ヶ原もあり湿地植物が所狭しと生えている。

今回の戸隠植物園の様子は、カラマツ、シラカバは若葉を出し、クルミ、ミズナラ、トチノキの大樹は水をいっぱい吸い上げ、葉は大きく広げて天を被い鳥の隠れ家となり野鳥を見つけることは難しい時期だと思ったが、来る度に鳥や植物から感動をもらう。

一日目 PM3 時頃から探鳥に出かける。心「う

きうき、わくわく」車道を歩いて行く、路肩にはクリンソウ、ヤマオダマキが楚々と咲き林床に目をやるとコバイケイソウの花が一斉に咲いていた。又小道に差し掛かると白い花をつけたササバギンランを発見、どの花も平地では見ることのできないやさしい色をつけ咲いている。

公園にはいと、アカゲラ、アカハラ、キセキレイ、アオジ等が姿をみせてくれた。ホトトギス、カッコウ等は遠く近くで聞え幸せな気分浸った。帰り道キビタキは立ち枯れた人の高さほどの木に止まり行ったり来たりして虫を取っている様子を観察し宿に向った。

夜のミーティングでは戸隠の森にアカショウビンが居る情報が入り、明日は二班に分かれて森に入ることに決定した。

二日目、早朝探鳥AM4 時頃クロツグミの声に起される。AM5 時出発、外に出ると肌寒く一枚余分に着て行く。

ホテル前の道路から前方をみると北アルプス立山連峰が見える。H氏に槍ヶ岳と子槍と教えていただき、朝日を受けた連峰が輝き清しい朝だ。山をみて感動。

「さあ出発」車道からはずれ越水ヶ原ロッチの主人に昨日近道を教えていただき、そこを歩く。

下草は霜を冠り白く光る。沢山のレンゲツツジが朝日を受けて橙赤色のやさしい色を醸し出している。彼方此方からウグイスの声。シラカバの幼木の幹は黒ずんでいることを知った。

表紙の言葉

ライチョウ (*Lagopus mutus*) Ptarmigan(7・8月)

平井正志

岐阜県上宝村双六小屋付近 1997年8月26日

高山に執念生息する。夏山ではヒナをつれたメスをよく見かける。ヒナといっしょの場合はヒナをかばってなかなか逃げないのでじっくりと見ることができる。メスは複雑な模様の保護色で、茂みの中でじっとしていたら全く気づかないであろう。オスは眼の上に赤い肉冠がある。冬には雌雄ともに全身白色になり、高山に留まり、雪の中で木の芽等を食べてすごす。スカンジナビア、シベリア、カナダ、アラスカ、グリーンランドに棲息する。日本の高山やヨーロッパアルプスには氷河時代の名残りで上記の地域から離れて分布する。

植物園に着く。早朝から野鳥のさえずりが降るほどに聞こえる。「ああしあわせ」。

カラマツ、シラカバ、カツラの若葉は朝露を受け緑鮮やかである。

入口のみどり池にモリアオガエルが卵をナナカマドの枝にたくさん産みつけ、まるで花の様。池は水が澄み、辺りの木々を写し神秘的な感じを受けた。

木道を進むと囀りがする。「サア探そう」、若葉の中、高木の小枝に止まるアオジをみつけ全員が暫くその声を聞き入った。その後アカハラが目の前を歩きチョコチョコと餌拾いをする。

奥社参道近くに来ると、ミソサザイの囀りがしきりに上の方から聞こえる。なかなか見つけられない。するとI氏が「いるいる」と見付けてくれた。

枯れた立木の天辺を舞台に独唱しているではないか。体は小さく声は大きく、そこはミソサザイのソングポストであろう。しかし、ミソサザイをはじめアオジ、アカハラなどの鳥も保護色を持ち、自分を保護するための遺伝子を親から子へ伝えられている。

早朝探鳥、終わりがけの時「ギャー」と鳴く声、コムドリ。そこへカラ類がやって来た。コムドリは銀色に光る若葉のイヌエンジュに止まり、しばらく数人が観察をした。

遠くではアオバズクの声もする。離れがたいがホテルに早足で戻る。

朝食をすまし、二日目本番、アカショウビンを探そうと出発。

足下の植物を観察しながら森に入る。

みどり池を前に左側の方向へ狭い山路に進むとカラマツ林あり。ここの木立は明るい。飛翔する鳥を探す。誰かが「ゴジュウカラだ」足を止めゆっくりと観察。黒くて長い過眼線をひき樹幹をまわりながら次の木にわたっていく。

右側の木の根元に三出葉のつる性植物があり危険だよと説明された。本ではみてるが初めて(ツタウルシ)記憶にとどめよう。

暫く進むとバードバスがあった。バスには水はなく枯れ葉が積もっていた。その辺りは空間があ

り明るい。枯れ枝に小鳥が2羽複雑な声でさえずっている。コサメビタキだった。もう一羽は、だまされ鳥の枯れ枝だった。鳥の姿に似て小鳥に見えた。「ああ残念」。

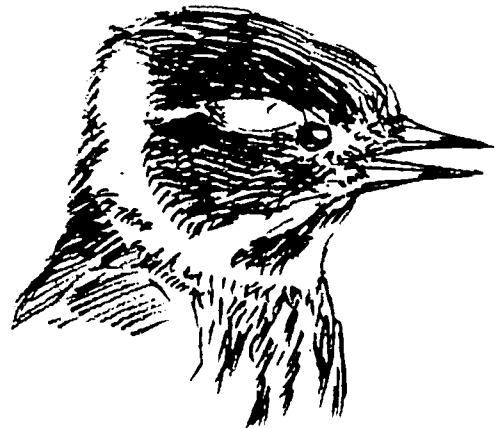
遊歩道を進むとミズナラ、クルミ等の樹木が空を覆い原生林だ。林床には、コバイケイソウが咲き、花園の様。森の中の沢辺りにクリンソウがところどころに花をつけて背伸びをしている。木の根元近くにはコケイラン、サイハイランの花も私たちを迎えてくれた。鳥の囀りは聞こえるがなかなか姿を見ることができない。

目的は、アカショウビン。遊歩道を行くと、カメラマンに出会う。その多さにびっくり。(別のグループは鳴き声を聞いたらしい)これでは、無理。・・・そこでカメラマンに話しかけた。カメラマン曰く「10分早ければみられたのに」その人達はチャッカリ撮っているではありませんか。残念、残念。

足下のコバイケイソウは踏み倒され一部のカメラマンのマナーの悪さに失望した。

その場を過ぎると天命稲荷が鎮座している。森の中に赤い旗が10本余り立つ。足を止め、アカショウビンに会う様、又無事に観察会が終わります様にと手を合わせ鏡ヶ池へと進む。

鏡ヶ池は水を溜め、戸隠山を写し若葉色に染まっている。すると戸隠山を背にノスリの旋回を見つけ16の目が追う。空も澄みノスリの翼角斑がはっきりとみる事ができた。又、若葉色の中にホオノキの花の白さが目にとびこんできた。木の高



コゲラ

さもあり、大自然に負けないように咲いている。

帰路→隋神門へと、途中ミズナラの大樹にホトトギス鳴く。葉は繁り樹高 20m 余りの木、見つけるには至難の業がいる。枝と枝の小さな空間から 1 氏が見つけて、皆が首が痛くなる程上を向き観察した。下面の斑がはっきりと見え、「特許許可局」と鳴き長く止まっていた。

結局、アカショウビンには出会えなかったが、いろいろな植物や囀りの声を聞きながら、充分大自然を満喫できました。

この観察ができたことは自然環境が保たれている証であり、今後も未永く戸隠の風格が損なわれないよう願わずにはられません。

2 日間 37 種

カイツブリ、カルガモ、アオサギ、ノスリ、ハヤブサ、アオバズク、キジバト、カッコウ、ホトトギス、ツツドリ、アカショウビン、アカゲラ、コゲラ、キセキレイ、ハクセキレイ、サンショウクイ、ヒヨドリ、モズ、ミソサザイ、コルリ、アカハラ、クロツグミ、ウグイス、キビタキ、コサメビタキ、ヒガラ、シジュウカラ、エナガ、ゴジュウカラ、メジロ、アオジ、ノジコ、カワラヒワ、イカル、ニューナイスズメ、コムクドリ、ハシブトガラス

普正寺の森探鳥旅行

桑名市 近藤義孝

北勢地区会で集まると、どこかへ行こうと以前から話はあったのですが、なかなか実行に移せずにいました。5 月の連休はみんな忙しいのでその次の週にどこかへいこうとなりました。軸倉島は土・日では無理だけど、日本海側で沢山の鳥を観察できる金沢市普正寺の森へ行くことになりました。学生時代、実験材料の海浜植物を採取に何度か来ていた石川県民海浜公園の横にこんなに沢山の鳥が来ていることは、2 年前にここの探鳥会に来るまで知りませんでした。

11 日（土）は、私の家に集合、7 人でワンボックスカーに乗り、出発です。今庄で北陸道を降り、昼食に越前そばを食べました。金沢を経て、午後

2 時前に河北潟干拓地へ到着しました。早速、河北潟干拓地内の農園で飼われている乳牛から作られたアイスクリームを食べました。干拓地を見て回り、干拓地の堤防上を舞うチュウヒを至近距離で観察することができました。

その後、河北潟野鳥観察舎で埋立られずに残っている河北潟の水面の鳥を観察し、北へ渡らずに残っているカモ類を観察できました。

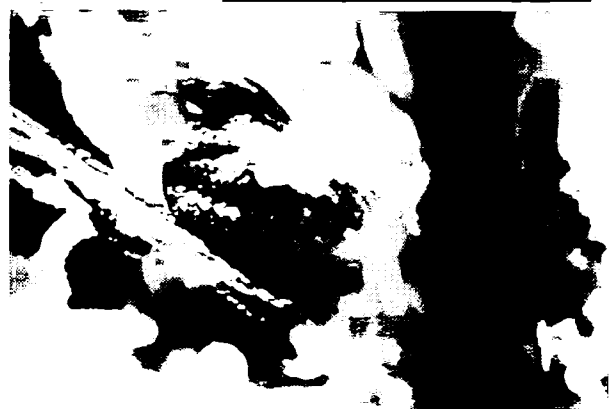
夕食は、浅野川天神橋から卯辰山へ向かって少し上った松魚亭で魚料理に舌鼓を打ち、金沢駅前のホテルで一泊しました。

翌朝 8 時出発、普正寺の森へ向かいました。夜には雨が降ったようでしたが、朝にはすっかりあがっていました。普正寺の森といっても、お寺の所有の森でなく、金沢港近くの地名です。よく調べていないのですが、砂丘の上にてきた森のようです。

普正寺の森探鳥会は石川県支部が毎月第 2 日曜日に実施しています。毎回テーマを決めて、探鳥会を実施し、ちょうど訪れた 5 月は「身近な鳥・スズメ」がテーマでした。健民海浜公園の中を散策しながら鳥を探します。途中、公園東側には金沢市中心部から流れてくる犀川があり、ここではカモなどの水鳥を観察することができます。公園西側は日本海です。公園の北側は江戸時代の豪商銭屋五兵衛の邸宅があった金石です。さらにその北側には河北潟から大野川が流れています。

今回の探鳥会では、集合場所の駐車場でアカハラをみていたら、プロミナーの視野の中にマミジャジナイが入っています。今回観察できたキビタキもそれほど珍しくなく、運がよいとムギマキが観察できるそうです。海岸に行

ヨタカ 市川雄二氏撮影
金沢市普正寺の森にて



た後、林の中で私たちのメンバーの濱中勝彦さんがヨタカを見つけました。これには、石川県支部の人たちも大喜びでした。初めてヨタカを見た人もいて、濱中さんにとっても感謝していました。市川雄二さんが撮影した写真を載せます。コムクドリやオナガなど普段は三重県では余りみないものも観察できました。

普正寺の森探鳥会で観察できたものを含めた、全行程で観察できた鳥類
カイツブリ、カンムリカイツブリ、カワウ、アマサギ、ダイサギ、チュウサギ、アオサギ、マガモ、カルガモ、コガモ、ヒドリガモ、ハシビロガモ、

ミサゴ、トビ、チュウヒ、キジ、オオバン、コチドリ、ケリ、チュウシャクシギ、コアジサシ、キジバト、ヨタカ、カワセミ、コゲラ、ヒバリ、ツバメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、サンショウクイ、ヒヨドリ、イソヒヨドリ、アカハラ、マミチャジナイ、ツグミ、オオヨシキリ、センダイムシクイ、キビタキ、オオルリ、コサメビタキ、エナガ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ、クロジ、カワラヒワ、スズメ、コムクドリ、ムクドリ、オナガ、ハシボソガラス、ハシブトガラス

以上 54 種



取 扱 商 品

フィールドスコープ
双眼鏡(小型・大型)
天体望遠鏡
カメラ(新品・中古)
その他光学製品各種

取 扱 メーカー

KOWA・NIKON・FUJINON
MIYAUCHI・VIXEN・PENTAX他

中部地区最大の光学製品専門店

TELESCOPE CENTER EYEBELL

テレスコープセンターアイベル (株式会社アイベル)
〒514-0801 津市船頭町3412(メガネのマスダ2F) TEL 059-228-4119
定休日/毎週水曜日 営業時間/10:00~19:00
ホームページ <http://www.eyebell.com> メールアドレス eyebell@diamond.broba.cc

2007 年度三重県支部総会

2007 年 5 月 20 日 13 時 30 分～15 時 00 分
三重県総合文化センター文化会館中会議室

5 月 20 日（日）津市の三重県総合文化センターにおいて、2007 年度日本野鳥の会三重県支部総会が開かれました。5 月現在の会員数 369 名、総会への出席者 33 名、委任状提出者 153 名、計 186 名で会員の過半数に達し総会が成立しましたので、以下の議案について承認を受けました。

2006 年度事業報告

2006 年度保護部報告

1. 木曾岬干拓地問題

○チュウヒサミット開催

2006 年 6 月 24 日 愛知県名古屋市愛知大学車道キャンパスにて

○木曾岬干拓地フォーラム開催

2007 年 3 月 25 日 桑名郡木曾岬町創世ホールにて

○木曾岬干拓地の現状

高速道路北側では埋め立て工事が進行中、毎日大量の土砂が搬入されている。

高速道路南側では一部で、湿地造成のための土の掘り起こしが行われている。

保護部で干拓地内立ち入り調査を継続中

2. 委託調査

○北勢地方クマタカ繁殖調査 2005 年度で調査の契約は終了、2006 年度以降も保護部員によって調査が継続されている。

○中勢地方オオタカ繁殖調査 継続調査中 2007 年 5 月現在、順調に繁殖が進行中と思われる

3. 野鳥生息調査

支部報「しろちどり」53・54 号で報告（伊賀地方の調査を除き、今回の調査は終了）

4. 風力発電問題

2006.11.4 に東京で開催された日本野鳥の会主催の「風力発電施設が鳥類に与える影響に関する国際シンポジウム」に参加

A) 鳥羽行者山風力発電計画

現在は申請を取り下げた状態。「鳥羽の自然と環境を守る会」を中心に取り組み、秋の渡りの調査も実施した。

現在、業者は追加調査を行っている模様。再申請の可能性が高い。

B) 津市伊賀市笠取山風力発電計画

環境影響評価準備書を検討した。事業者はクマタカ営巣地近くの風車 2 基を削減したが、支部として現状では計画に反対との意見書の提出した。

5. カイト問題 五主海岸ではカイトが頻繁になっているが、対策が取られていない。

6. ラムサール候補湿地

五主海岸を含む中勢地方の海岸を候補に上げている。(ラムサール市民の会)

7. 野鳥記録

情報を収集し、検討したうえで「しろちどり」に掲載した。

2006 年度研究部報告

1. 委託調査事業

○ 鳥獣保護区基礎調査

調査場所：北勢中央公園鳥獣保護区、南伊勢町伊勢路鳥獣保護区、
伊賀市上津鳥獣保護区、伊賀市上野新都市鳥獣保護区、
名張市赤目鳥獣保護区、尾鷲市佐波留鳥獣保護区

調査時期および調査回数：環境調査 1回

生息状況調査 夏季 1回/区

冬季 1回/区

(尾鷲市佐波留鳥獣保護区の生息状況調査は繁殖期の夏季 1回)

結果特記事項：佐波留島ではコサギ、ダイサギ アオサギが少数繁殖している。

さらにアマツバメが繁殖している。50 個体ほど飛翔を確認した。

○ ガン・カモ科鳥類一斉調査 調査員 30 名

調査地点 171 地点

特筆記録なし、昨年より個体数が増加

2. WWF シギチドリモニタリング調査

鈴鹿川、白塚海岸、安濃川、五主海岸、愛宕・金剛・櫛田川 の 5 地点
各地点で年 3 回実施

3. 中部近畿カワウ広域協議会 (大津市で開催) に研究部として参加。

2006 年度編集部報告

51 号 特集：失われた湿地とその回復 26 ページ

52 号 特集：三重県の探鳥地 22 ページ

53 号 特集：海外旅行の鳥 32 ページ

54 号 特集：三重県支部の鳥類調査 22 ページ

今年度発行月を 1 ヶ月ずらして、4 回発行した。平均して 24.5 ページであった。

年 1 回のカラー印刷は実現できなかった。特集についてはやや力不足の面もあった。

2006 年度企画部報告

1. 探鳥会

51 回探鳥会を計画し、うち 9 回が雨天中止であり、42 回が行われた。

2. 研修・講座

- 野鳥講座 5月28日 三重県生涯学習センター 視聴覚室 40名参加
- 室内研修 アスト津 会議室
 - ①4月9日 9名 ②7月9日 16名
 - ③10月15日 8名 ④2月18日 (中止)
- バードウォッチング案内人養成講座 5月14日 10名参加
県立鈴鹿市青少年センター

2006年度事務局報告

1. 総会 5月28日(日) 三重県総合文化センター (視聴覚室)
2. 理事会
 - 第1回 5月28日(日) 三重県総合文化センター (視聴覚室)
 - 第2回 11月12日(日) サンワーク津
 - 第3回 2007年3月11日(日)
三重県総合文化センター (男女共同参画センター)
3. 委託調査
 - カワウねぐらコロニー調査 調査時期:7月、12月、3月
調査員:27名
調査地点:19地点
 - 鈴鹿市動植物鳥類調査 調査時期:年間
調査員:5名
調査地:9区域
4. ホームページ
ホームページ逐次更新し、今期アドレスが変更になった。多くのアクセスがある。

2007～2008年度役員候補

新役員選出

事務局から14名の役員候補が紹介され、異議なく承認された。なお新役員の任期は2年である。総会で選出された役員は総会休憩時間に第1回の理事会を開き、役職を次のように決めた。

- 理事 支部長兼保護部長 平井正志
(副支部長 空席)
- 監事 加藤光弘
- 監事 小林達也
- 理事 事務局長 西村泉
- 理事 編集部長 近藤義孝
- 理事 研究部長 前澤昭彦

理事 企画部長 石原宏
理事 保護部副部長 村田芳雄
理事 塗矢尋一
理事 西村四郎
理事 山田昭子
理事 竹林康
理事 中西章
理事 川口久美

その後、新支部長から8名の運営委員が指名され、支部の運営に携わることとなった。

2007年度事業方針

2007年度保護部方針

1. 木曾岬干拓地問題

これまでどおり、月1回の観察をつづける。今年は工事が始まり、代償措置が機能するかどうか見極めるのに大切な年である。木曾岬フォーラムも引き続き開催する。干拓地の将来像について、干潟に戻そうと立場の方々とも対話をつづける。

2. 北勢地方クマタカ調査

自治体からの委託調査は終了したが、支部の自主調査として継続する。(調査費支出については理事会で検討する)

3. 中勢地方オオタカ調査

引き続き委託調査として実施する。

4. 鳥羽行者山風力発電計画問題

建設業者は鳥類調査を再開したもようである。前回の調査結果からサシバなどの飛行ルートであることが確実であり、引き続き建設反対の態度である。しかし、新たな調査結果が公表されれば検討を加える。

5. 笠取山風力発電計画について

青山高原北側、長野峠(国道163号)付近(主として南側)の山林に株式会社シーテック(中部電力の子会社)が19基(2,000kw×19)の風力発電機および送電線など付随施設(改変面積合計35ha)を計画している。事業者は三重県環境影響評価条例に基づく環境影響調査を行い、準備書を提出し、閲覧が4月に終了した。日本野鳥の会三重県支部は4月に現状では建設反対の意見を提出した。

当該地域の間近にクマタカの営巣地があり、準備書では高利用域にかかった2基の建設をとりやめたので、クマタカ繁殖への影響はごくわずかであるとしている。

しかし、調査は2005年10月から2007年8月までの1年にも満たない期間であり、かつその期間クマタカは繁殖に成功していない。かつ高利用域と推定された地域の面積は繁殖期で125ha、全期間では244haにすぎず、平均で700-800haとされる面積(クマタカ生態研究グループ)に比べて遙かに狭い。また猛禽の渡りについても1期のみ調査で不十分である。このような理由から支部は反対の意見書を提出し、三重県、伊賀市、津市、環境省中部環境事務所にも送付した。

今後業者は見解書を作成し、それに対し知事、関係市長は意見を提出することができる。シーテックからは意見に対する見解が送付されている。それによるとそのまま計画を進めるようである。

今後業者の対応（A 計画を練り直す、B 調査を追加し、計画を一時延期する、C そのまま計画を進める）により、支部も対応したい。できれば支部でも独自調査をくみたい。このまま計画を強行するならば、全国の自然保護団体によびかけて反対を強める。なお風力発電そのものに支部、あるいは野鳥の会が反対ではない。適地を選んで建設すべきであろう。

6. 野鳥記録

これまで通り、保護部で担当し支部報に公表する。ただし、公表により、カメラマンなどが集中するおそれのあるもの、猛禽の繁殖など鳥類棲息に大きな影響を及ぼすものについては公表を遅らせたり、公表しない場合がある。記録は保護部で保管し、今後の保護活動に役立てる。

7. 野鳥棲息調査

伊賀地方の調査は続けられているが、他では一応終了した。冊子として残したい。また今後も恒常的な活動として鳥類調査を行いたい。

2007 年度研究部方針

ガンカモ調査、および WWF シギチドリモニタリング調査については例年通り行う。鳥獣保護区基礎調査は県の委託事業がなくなったのでなし。

2007 年度編集部方針

北勢地区で担当する。年 4 回の発行を維持する。年 1 回はカラーとすることを目標にする。会員の交流を図れる誌面にしたい。会員の投稿（文章、写真、絵など）を歓迎する。

2007 年度企画部方針

別表 行事計画のように探鳥会を計画する。

1. 行事（探鳥会）案内の発行、探鳥会報告の作成を行う。案内の発行月についてはこれまでと同じように支部報と同じにするか、月をずらすか、今後検討する。
2. 野鳥講座を充実させたい。初心者向けの講座だけでなく、専門知識、専門技術を広げる講座も用意したい。外部の講師も積極的に呼び、新入会員むけのみでなく、ベテランが興味持てる講座も開催したい。また、津で開催するだけでなく、北勢、南勢、伊賀でも開催するように努力する。呼びたい講師など積極的に提案してほしい。
3. 青少年向け啓蒙活動も行いたい。
4. できれば県外へのバスハイク、遠出探鳥会なども計画したい。積極的に企画に関わる人を募集します。

2007年度日本野鳥の会三重県支部 年間行事計画(案)

	北勢地区	伊賀地区	津地区	松阪地区	南勢地区	その他
4月	7(土)藤原岳 22(日)木曾岬 28(土)県民の森			7(土) ベルファーム 15(日)五主海岸	8(日) 鳥羽庫蔵寺	
5月	6(日)朝明溪谷 22(火)海蔵川 27(日)木曾岬	27(日)青山高原	26(土)野登山		12(土)早朝	20(日)総会
6月	24(日)木曾岬	9(土)名張市		17(日) 雲出川中流		
7月	22(日)木曾岬				28(土) ねぐら入り	
8月	19(日)高松海岸 19(日)ツバメ 26(日)木曾岬					5(日)理事会
9月	18(火)海蔵川 22(土)多度山 23(日)木曾岬	30(日)伊賀市	22(土)五主海岸	1(土) 金剛川河口 29(土)タカ渡り	30(日)やすらぎ	
10月	28(日)木曾岬		14(日)白塚・町屋		6(土)鳥羽タカ	
11月	25(日)木曾岬	25(日) 伊賀森林公園		17(土) ベルファーム	23(金・祝) 五十鈴公園	11(日)理事会
12月	11(火)海蔵川 23(日)木曾岬		23(祝・土) 安濃ダム		16(日)神路ダム	
1月	27(日)木曾岬	27(日)名張市 東山公園				
2月	17(日)木曾三川 24(日)木曾岬	10(日) 上野城公園				
3月	2(日)石垣池 18(火)海蔵川 23(日)木曾岬		2(日)借楽公園	16(日)丹生	6(木)宮リバー	9(日)理事会
計	24	6	5	7	8	50



サルトリイバラ

2007年度一般会計予算書

● 2007年4月1日～2008年3月31日

【】収入の部 ○一般会計

支部会費	370名 * 2,000円	740,000
		742,000
受取寄付金		10,000
		14,000
受取補助金		0
		50,000
受取利息		1,500
		1,387
雑収入	広告料	20,000
		62,500
収入合計		771,500

○特別会計

販売事業		30,000
オオタカ	1,627,500*15%	244,125
ガンカモ	420,000*15%	63,000
カワウ	945,000*15%	141,750
鳥獣保護	840,000*15%	126,000
収益合計		604,875

総収入合計

1,376,375

【】支出の部

	総会費	理事会費	事務局費	支部活動費	支部報費	対外費	研修費	部長会議費	合計
通信費	49,000	8,000	200,000	20,000	200,000	0	0	2,000	479,000
	18,500	7,410	201,547	21,670	162,289	0	0	1,600	413,016
印刷費	4,000	2,000	30,000	70,000	200,000	0	0	0	306,000
	3,428	1,670	34,143	75,681	322,350	0	0	0	437,272
消耗品費	0	0	50,000	5,000	40,000	0	0	0	95,000
	0	0	5,477	4,324	20,000	0	0	0	29,801
会場費	15,000	8,000	8,000	20,000	5,000	0	10,000	5,000	69,000
	8,450	4,930	8,465	29,940	0	0	3,150	0	54,935
会議費	0	0	5,000	25,000	5,000	0	0	0	35,000
	0	0	0	0	0	0	0	0	0
旅費・宿泊費	200	28,000	2,000	50,000	10,000	100,000	10,000	10,000	210,200
	200	28,000	1,600	98,340	0	74,520	0	8,000	210,660
贈謝金	0	0	0	0	0	0	50,000	0	50,000
	0	0	0	0	0	0	0	0	0
交際費	0	0	6,000	8,000	0	10,000	0	0	22,000
	0	0	0	2,100	0	0	1,050	0	3,150
図書費	0	0	20,000	0	0	0	0	0	20,000
	0	0	0	0	0	0	0	0	0
雑会費	0	0	0	0	0	50,000	0	0	50,000
	0	0	0	0	0	20,000	0	0	20,000
備品	0	0	400,000	0	0	0	0	0	400,000
	0	0	0	0	0	0	0	0	0
雑費	0	0	4,000	500	1,500	500	0	0	6,500
	10	0	2,070	945	1,501	360	0	0	4,886
一般予算合計	88,200	44,000	725,000	198,500	481,500	180,500	70,000	17,000	④1,742,700

●支部活動費……企画部・保護部・研究部・保護活動・地区活動

差引収益額

▲ 388,325

●対外費……中部ブロック・密対連・干潟を守る日・野生ネット

* 上段:本年度 下段:昨年度

支部活動の記録(2007年3月～7月)

事務局まとめ

- 3/11 2006年度第3回理事会
3/14 名張市赤目鳥獣保護区 赤目長坂特別保護地区設定について意見書の送付
3/20 支部報「しろちどり第54号」発行
3/23 中部近畿カワウ広域協議会へ参加(研究部長)
各委託調査事業のまとめ作業・成果物の提出
4/3 「ウインドパーク笠取風力発電事業」環境影響評価準備書に関する意見書の提出
4/7 税申告について打ち合わせ/笠取風力発電施設予定地見学
4/11 木曾川中流鳥獣保護区設定について意見書の送付
4/14 名張市青澁寺鳥獣保護区設定について意見書の送付
4/20 「ウインドパーク笠取風力発電事業」について県へ申し入れ・記者発表
4/24 県営防災ダム事業環境調査委託について入札
5/9 「度会ウインドファーム」のエコパワーと面会
5/9 伊勢管内で県・警察との合同密猟パトロール(南勢地区)
5/14 平成18年度会計監査
5/16 鳥羽管内で県・警察との合同密猟パトロール(南勢地区)
5/17 櫛田川の整備について国土交通省と協議
5/19 「ウインドパーク笠取風力発電事業」のシテックと面会
5/23 紀和町湯の口鳥獣保護区期間更新について意見書の送付(全2通)
5/30 桑名市桑部鳥獣保護区設定について意見書の送付
6/4 保護部会
6/7 松阪市森林公園鳥獣保護区設定について意見書の送付(全2通)
6/12 紀北町海山区白石湖鳥獣保護区指定について意見書の送付(全2通)
6/28 伊賀市上ノ庄特定猟具使用禁止区域指定について意見書の送付(全4通)
7/2 津市白山町四季の里鳥獣保護区指定について意見書の送付(全6通)
7/4 「ウインドパーク笠取風力発電事業」環境影響評価委員会小委員会を傍聴(事務局及び津地区)
7/10 名張市赤目鳥獣保護区 赤目長坂特別保護地区指定に係る公聴会へ支部長の代理が出席
7/11 桑名市桑部鳥獣保護区他の指定に係る公聴会へ支部長の代理が出席
7/11 多気町丹生鳥獣保護区指定について意見書の送付
7/13 「ウインドパーク笠取風力発電事業」他について県へ出向く(支部長)
7/14 事務局会議
7/17 南伊勢町伊勢路鳥獣保護区の指定について意見書の送付(全8通)

● 今後の予定

- 8/5 第2回理事会
8/25 支部報「しろちどり第55号」発行予定



シシガシラ

野鳥記録(2007年4月から6月まで)

種名	個体数	記録日	場所(通称など)	記録者氏名
ビロードキンクロ	1	2007/3/4	津市河芸町東千里 中ノ川河口浜辺	岡八智子
ハマシギ	10	2007/3/10	津市末広町 中河原海岸	岡八智子
ミヤマガラス	20	2007/3/11	御浜町志原	中井節二
ミヤマガラス	30	2007/3/12	熊野市有馬町	中井節二
ミヤマガラス	5	2007/3/13	紀宝町神の内	清水勝海
ホオジロハクセキレイ	1	2007/4/5	御浜町市木	中井節二
オオアジサシ	50	2007/4/7	御浜町阿田和	阿部
ギンムクドリ	2	2007/4/12	御浜町市木水田	中井節二
ムネアカタヒバリ	1	2007/4/12	御浜町市木水田	北川直人
セイタカシギ	17	2007/4/27	御浜町志原	中井節二
ノジコ	2	2007/5/3	御浜町市木	中井節二
キタツメナガセキレイ	1	2007/5/3	御浜町阿田和	清水勝海
アカガシラサギ	1	2007/5/6	御浜町志原	中井節二
サルハマシギ	6	2007/5/8	松阪市三雲町喜多村新田(三渡川河口)	石原宏
アカアシミズナギドリ	1	2007/5/20	熊野市有馬町	中井節二
オオアジサシ	5	2007/5/20	熊野市有馬町	中井節二

探鳥会報告

2007年2月～2007年6月

●動物園の鳥探鳥会

2007年2月11日(日) 11:00～14:00

名古屋市千種区 東山動物園

杉浦邦彦 参加者 5名(会員5名)

ゴイサギ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、カルガモ、チョウゲンボウ、コゲラ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、アオジ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ドバト。20種

外国の猛禽類(ハクトウワシ等コンドル類)ダチョウ類、ペンギン類、ガンカモ類、ツル類、キジ類、インコ類(特に世界的に保護されているムラサキコンゴインコ、ベニコングウインコ)、フクロウ類、等を身近でその特徴を肉眼で観察し、羽根の変化が環境によって異なることを学んだ。禽舎の中でともに観察できるのは感動していたようだようであった。

●木曾三川探鳥会

2007年2月18日(日) 9:00～12:00

桑名市多度町、愛知県愛西市

近藤義孝 杉野幸子 参加者6名

カイツブリ、カンムリカイツブリ、カワウ、ダイサギ、アオサギ、ヒシクイ、コハクチョウ、マガモ、カルガモ、コガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、ミサゴ、ノスリ、チュウヒ、チョウゲンボウ、ケリ、タゲリ、カモメ、キジバト、コゲラ、ヒバリ、ハクセキレイ、タヒバリ、ヒヨドリ、モズ、シロハラ、ツグミ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カシラダカ、オオジュリン、カワラヒワ、イカル、ニューナイスズメ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ドバト。44種

朝まで続いた雨のため、参加者は少なかったが、ヒシクイ(オオヒシクイ)やコハクチョウなどを観察できた。冬のアシ原は鳥類の楽園である。

●宮川・外城田川探鳥会

2007年2月24(土)9:30~11:30

伊勢市磯町

西村泉 山田昭子 参加者 11名(会員 10名
会員外1名)

カイツブリ、カワウ、アオサギ、マガモ、コガモ、
オカヨシガモ、ヒドリガモ、ホシハジロ、キンク
ロハジロ、スズガモ、トビ、イソシギ、ユリカモ
メ、セグロカモメ、ウミネコ、キジバト、ハクセ
キレイ、ヒヨドリ、シロハラ、ツグミ、ホオジロ、
アオジ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ド
バト。26種。

強風のためゆっくり観察する事は難しかった
が、外城田川では約2000羽のカモが見られた。

●木曾岬干拓地探鳥会

2007年2月25日(日)9:00~12:00

弥富市・木曾岬町・鍋田干拓地・木曾岬干拓地
共催/日本野鳥の会愛知県支部・名古屋鳥類調査
会

近藤義孝 村田芳雄 参加者 21名

カイツブリ(10)、カワウ(5000)、ダイサギ(2)、コ
サギ(4)、アオサギ(2)、カルガモ(50)、コガモ(100)、
オカヨシガモ(60)、ハシビロガモ(70)、ホシハジ
ロ(13)、キンクロハジロ(10)、ミサゴ(5)、オオタ
カ(3)、ノスリ(4)、チュウヒ(2)、コチョウゲンボ
ウ(2)、チョウゲンボウ(2)、キジ(5)、オオバン(1)、
ケリ(20)、タゲリ(12)、クサシギ(2)、イソシギ(7)、
キジバト(20)、ヒバリ(5)、ハクセキレイ(8)、タヒ
バリ(10)、ヒヨドリ(50)、モズ(1)、ジョウビタキ
(1)、ツグミ(30)、ウグイス(2)、シジュウカラ(2)、
メジロ(20)、ホオジロ(15)、アオジ(1)、カワラヒ
ワ(50)、スズメ(100)、ムクドリ(100)、ハシボソ
ガラス(100)、ハシブトガラス(40)、ドバト(20)。
42種

冬の鍋田・木曾岬干拓地は猛禽類を沢山見ること
ができる。オオタカが同時に背中を向けている
個体とお腹を向けている個体を観察できた。

●島ヶ原探鳥会

2007年2月25日(日)

奈良市月ヶ瀬

塗矢尋一 前澤昭彦

雨天中止

●津・借楽公園探鳥会

2007年3月4日(日)10:00~12:00

津市借楽公園

石原宏 西浦克征 参加者 29名(会員 16名
会員外13名)

キジバト、コゲラ、ビンズイ、ヒヨドリ、ジョウ
ビタキ、シロハラ(声)、ツグミ、エナガ、ヤマ
ガラ、シジュウカラ、メジロ、アオジ、カワラヒ
ワ、ウソ、イカル、スズメ、ムクドリ、ハシボソ
ガラス、ドバト。19種

手近な探鳥地で周辺の会員以外の参加者が多
く、ごく普通種の小鳥達の観察ができた事を喜ん
でいただき、支部会員の増加につながったら思い
ました。

●石垣池探鳥会

2007年3月4日(日)10:00~12:00

鈴鹿市西玉垣町

市川雄二 市川美代子 参加者 17名(会員 9名
会員外 8名)

カイツブリ、カワウ、アオサギ、カルガモ、コガ
モ、ヨシガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、アメ
リカヒドリ、オナガガモ、ハシビロガモ、ホシハ
ジロ、キンクロハジロ、オオタカ、キジバト、コ
ゲラ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ウグイス、
シジュウカラ、メジロ、カワラヒワ、スズメ、ム
クドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス。27
種

4月下旬の陽気になり、カワラヒワ、ハクセキ
レイの美しい歌声を楽しめました。いつもの擬木
にオオタカがいて初めて、アメリカヒドリを1羽
見ることが出来ました。

●海蔵川定例探鳥会

2007年3月20日(火)9:40~12:00

四日市市西坂部町・海蔵川代官橋

尾畑玲子 高和義 参加者 14名(会員 10名
会員外 4名)

カイツブリ、カワウ、ダイサギ、アオサギ、マガ
モ、カルガモ、キンクロハジロ、オオタカ、キジ、
バン、イカルチドリ、ケリ、キジバト、カワセミ、
ヒバリ、ツバメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、
ヒヨドリ、モズ、ツグミ、メジロ、ホオジロ、ア
オジ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソ

ガラス、ハシブトガラス、ドバト。30種

いつもより多い参加者を歓迎してか、野鳥も30種観察できた。自然界で種類が多いのは生物多様性を示唆しているが、今回は参加者も小学生、初参加、県外から会員外など多様で海蔵川に関心をもつ人たちの層の厚さを感じさせられた。

●木曾岬干拓地探鳥会

2007年3月25日(日)9:00~12:00

弥富市・木曾岬町・鍋田干拓地・木曾岬干拓地
共催/日本野鳥の会愛知県支部・名古屋鳥類調査会

近藤義孝 村田芳雄 参加者7名

カイツブリ(15)、カワウ(500)ダイサギ(1)、コサギ(2)、アオサギ(3)、マガモ(2)、カルガモ(10)、コガモ(30)、オカヨシガモ(36)、ハシビロガモ(7)、ホシハジロ(3)、キンクロハジロ(10)、ミサゴ(2)、ノスリ(1)、チュウヒ(3)、キジ(10)、ケリ(10)、クサシギ(3)、イソシギ(1)、キジバト(30)、カワセミ(1)、ヒバリ(30)、ハクセキレイ(5)、ヒヨドリ(4)、モズ(2)、シロハラ(1)、ツグミ(20)、ウグイス(1)、シジュウカラ(1)、メジロ(1)、ホオジロ(3)、アオジ(1)、スズメ(40)、ムクドリ(20)、ハシボソガラス(20)、ハシブトガラス(5)、ドバト(70)。
37種

チュウヒが近くを長く飛んでくれた。

●篠田山探鳥会

2007年3月31日(土)9:45~11:45

松阪市久保町 篠田山

谷口ひろ子 小津みゆき 参加者19名(会員17名 会員外2名)

トビ、サシバ、キジ、キジバト、コゲラ、ヒバリ、ツバメ、セグロセキレイ、ピンズイ、ヒヨドリ、ジョウビタキ、アカハラ、シロハラ、ツグミ、ウグイス、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ、クロジ、カワラヒワ、イカル、ハシボソガラス、ハシブトガラス、コジュケイ。27種

お天気もよく絶好の探鳥会日和でした。19名もの沢山の方に参加していただきました。思ったより沢山の鳥を見ることが出来ました。

●松阪ベルファーム探鳥会

2007年4月7日(土)9:30~11:45

松阪市伊勢寺町 ベルファーム

中村洋子 竹川華子 参加者16名(会員15名 会員外1名)

カイツブリ、カワウ、ダイサギ、マガモ、カルガモ、コガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、キンクロハジロ、オオバン、ケリ、キジバト、カワセミ、コゲラ、ヒバリ、ツバメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、シロハラ、ツグミ、メジロ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ、カワラヒワ、マヒワ、シメ、スズメ、ハシブトガラス。31種

カモが少なくなったが、カワラヒワが群で飛んだり、枝にとまったりしてしっかり見ることが出来ました。又最後にカワセミが現れて前、前後とポーズを変えて大サービスをしてくれました。

●藤原岳山麓探鳥会

2007年4月7日(土)9:30~12:00

いなべ市藤原町

加藤光広 村田芳雄 参加者6名(会員6名)

トビ、キジバト、コゲラ、ヒバリ、ツバメ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ツグミ、ウグイス、ヤマガラ、シジュウカラ、ホオジロ、カワラヒワ、スズメ、ハシボソガラス。16種

冬鳥のツグミ、夏鳥のツバメの両方を確認し、この季節を感じました。川の土手にいるホオジロをじっくり観察することが出来て、満足感を味わいました。

●鳥羽庫蔵寺探鳥会

2007年4月8日(日)9:30~11:30

鳥羽市河内町

共催/鳥羽の自然と環境を守る会

西村泉 川村晴彦 参加者11名(会員8名 会員外3名)

トビ、ノスリ、キジ、アオゲラ、コゲラ、ヒヨドリ、シロハラ、ウグイス、エナガ、ヒガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、アオジ、カケス、ハシブトガラス。17種

古寺へ続く山道を鳥の声を聞きながらのんびり歩いた。新緑がまぶしい大木にカラの一团が飛来し、楽しいひと時だった。

●五主海岸とその近辺一周探鳥会

(干潟・湿地を守る日 2007 参加行事)

2007年4月15日(日)9:30~11:30

松阪市五主町 五主海岸 共催/日本湿地ネットワーク

久住勝司 福井勝 参加者 16名(会員 15名 会員外 1名)

カイツブリ、カワウ、ダイサギ、アオサギ、コガモ、ヨシガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、ウミアイサ、トビ、キジ、シロチドリ、メダイチドリ、ケリ、ハマシギ、ツルシギ、アオアシシギ、チュウシヤクシギ、タシギ、セイタカシギ、ユリカモメ、セグロカモメ、ヒバリ、ツバメ、ヒヨドリ、ツグミ、セッカ、ホオジロ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、34種

日本湿地ネットワークとの共催と言うことで五主海岸の干潟の現況と干潟への渡り鳥(シギ、チドリ類)の数が激減している状態を説明、理解してもらえたのではないかと。曾原では夏羽に変わりつつあるツルシギ、セイタカシギの飛翔姿、ペアリングシーン等で大いに楽しめた。

●木曾岬干拓地探鳥会

2007年4月22日(日)9:00~12:00

弥富市・木曾岬町・鍋田干拓地・木曾岬干拓地 共催/日本野鳥の会愛知県支部・名古屋鳥類調査会

近藤義孝 村田芳雄 参加者 18名

カイツブリ(3)、カワウ(100)、ダイサギ(2)、コサギ(3)、アオサギ(6)、マガモ(2)、カルガモ(40)、コガモ(40)、オカヨシガモ(5)、ホシハジロ(3)、キンクロハジロ(4)、ミサゴ(1)、チュウヒ(3)、キジ(30)、コチドリ(7)、ケリ(50)、クサシギ(3)、イソシギ(4)、チュウシヤクシギ(3)、キジバト(6)、ヒバリ(50)、ツバメ(9)、ハクセキレイ(2)、ヒヨドリ(30)、モズ(1)、ツグミ(15)、ウグイス(1)、セッカ(20)、カワラヒワ(3)、スズメ(100)、ムクドリ(20)、ハシボソガラス(60)、ハシブトガラス(20)、ドバト(40)。34種

チュウヒのディスプレイを観察できた。今年も干拓地南側ではチュウヒの繁殖がおこなわれている。

●三重県民の森探鳥会

2007年4月28日(土)9:30~12:30

三重郡菟野町千草 三重県民の森 共催/三重県民の森

矢田栄史 辻秀之 参加者 62名(会員 19名 会員外 43名)

オオタカ、ノスリ、キジバト、コゲラ、ヒバリ、ツバメ、キセキレイ、ビンズイ、ヒヨドリ、ヤブサメ、ウグイス、キビタキ、オオルリ、エナガ、ヤマガラ、メジロ、ホオジロ、カワラヒワ、マヒワ、イカル、スズメ、カケス、ハシブトガラス。23種

この春も夏鳥たちは順調にやってくる。オオルリ、キビタキ、ヤブサメ、ツバメの4種を確認する事が出来た。4月25日に県民の森職員の方にエナガの巣が落ちていたことを教えてもらっていたので、当日参加の皆さんに実物を見てもらって説明した。

●朝明源流探鳥会

2007年5月6日(日)

三重郡菟野町 朝明溪谷

辻秀之 川口久美

雨天のため中止

●五十鈴川早朝探鳥会

2007年5月12日(土)6:00~9:00

伊勢市宇治館町

山田昭子 竹林康 参加者 18名(会員 15名 会員外 3名)

ヤマドリ、キジバト、アマツバメ、カワセミ、コゲラ、ツバメ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、イソヒヨドリ、ヤブサメ、ウグイス、キビタキ、オオルリ、エナガ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カワラヒワ、イカル、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス。23種

前日からの、強風が少し残っていたが、お目当てのオオルリ、キビタキ、ヤブサメなどの夏鳥が見られ、満足のできる探鳥会だった。

●海蔵川定例探鳥会

2007年5月22日(火)9:40~12:00

四日市市西坂部町・海蔵川沿い

尾畑玲子 高和義 参加者 11名(会員 11名)

カイツブリ(1)、カワウ(2)、アマサギ(2)、ダイサギ(1)、チュウサギ(3)、アオサギ(2)、カルガモ(8)、オオタカ(2)、キジ(3)、ケリ(2)、キジバト(20)、カワセミ(2)、ヒバリ(3)、ツバメ(10)、セグロセキレイ(3)、ヒヨドリ(4)、モズ(2)、ウグイス(2)、ホオジロ(6)、カワラヒワ(7)、スズメ(26)、ムクドリ(3)、ハシボソガラス、ハシブトガラス(20)、ドバト(8)。 25種

オオタカが現れて注目していたところに第2の猛禽類が視界に入ってきた。翼の形から、ハヤブサと思ったが大きさなどに疑問点が多いので後ほど写真判定により、オオタカと分かった。大きいほうが小さいの近くにやってきましたようだ。

●野登山探鳥会

2007年5月26日(土)9:50~14:00

亀山市安坂山町

川口久美 岡八智子 参加者21名(会員18名 会員外3名)

トビ、ツツドリ(声)、ホトトギス(声)、アオゲラ、コゲラ、ツバメ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、クロツグミ(声)、ウグイス(声)、メボソムシクイ(声)、キビタキ(声)、オオルリ、ヒガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カワラヒワ、イカル(声)、カケス、ハシブトガラス。22種

初夏の探鳥会らしく、ホトトギス、キビタキ、オオルリなどの鳴禽達を存分に楽しむことが出来た。昼食後、別紙レジュメにより、「鳥の飛翔形態とその特徴」について雑談勉強会をした。

●木曾岬干拓地探鳥会

2007年5月27日(日)9:00~12:00

弥富市・木曾岬町・鍋田干拓地・木曾岬干拓地 共催/日本野鳥の会愛知県支部・名古屋鳥類調査会

近藤義孝 村田芳雄 参加者21名

カワウ(100)、アマサギ(1)、ダイサギ(5)、チュウサギ(3)、コサギ(4)、アオサギ(6)、カルガモ(7)、ホシハジロ(2)、キンクロハジロ(2)、ミサゴ(2)、チュウヒ(1)、キジ(10)、タマシギ(1)、コチドリ(20)、シロチドリ(3)、ケリ(40)、イソシギ(1)、コアジサシ(150)、キジバト(10)、ヒバリ(30)、ツバメ(20)、ヒヨドリ(4)、オオヨシキリ(10)、セッカ(30)、ホオ

ジロ(6)、スズメ(50)、ムクドリ(30)、ハシボソガラス(50)、ハシブトガラス(10)、ドバト(20)。 30種

木曾岬干拓地の伊勢湾岸道路北側にコアジサシがたくさん集まっていた。埋め立てが行われ、盛り土されたところである。シロチドリやコチドリも集まっていた。かつては、チュウヒの繁殖行動が観察された場所である。

●青山高原白山保健休養地探鳥会

2007年5月27日(日)9:00~12:00

伊賀市 青山高原

小林達也 田中豊成 参加者15名(会員12名 会員外3名)

トビ(1)、キジ(1)、キジバト(4)、カッコウ(2)、ホトトギス(3)、アオゲラ(1)、コゲラ(1)、ツバメ(5)、ヒヨドリ(10)、モズ(2)、ウグイス(10)、キビタキ(1)、オオルリ(1)、エナガ(3)、コガラ(1)、ヒガラ(1)、ヤマガラ(2)、シジュウカラ(5)、メジロ(3)、ホオジロ(5)、カワラヒワ(10)、カケス(2)、ハシブトガラス(2)、コジュケイ(1)。24種

繁殖時期であり、営巣中の個体を観察できた。今シーズン、クロツグミの姿は全く見られなかった。また、国定公園内であり、環境の変化はあまり見られなかった。

●赤目の水田の野鳥を見る探鳥会

2007年6月9日(土)9:00~11:45

名張市赤目町安部田

田中豊成 小林達也 参加者9名(会員4名 会員外5名)

サシバ(2)、キジ(1)、タマシギ(2)、ケリ(10)、ホトトギス(2)、コゲラ(1)、ヒバリ(5)、ツバメ(10)、ウグイス(5)、オオヨシキリ(3)、ホオジロ(3)、カワラヒワ(10)、イカル(1)、スズメ(10)、ハシボソガラス(3)、計15種

一眼レフ、デジカメとフィールドスコープで子供、女性にも姿を見てもらったり、集音器で声を聞いてもらったりしたのでよかった。

●雲出川中流河川公園探鳥会

2007年6月17日(日)9:00~11:00

松阪市甚目町(雲出川河川公園)

福井勝 小野新子 参加者10名(会員7名 会員外3名)

カワウ(15)、ゴイサギ(10)、アマサギ(6)、ダイサギ(5)、コサギ(5)、アオサギ(6)、カルガモ(6)オオタカ(1)、キジバト(2)、コゲラ(1)、ヒバリ(7)、ツバメ(25)、ウグイス(3)、セッカ(2)、ホオジロ(10)、カワラヒワ(6)、スズメ(40)、ムクドリ(40)、ハシボソガラス(20)、コジュケイ(2)。20種

当地は河川敷地の球技場と森林散策路からなり、付近の「鎮守の森」、水場、捕食、営巣地などからなり、田園地帯での多くの野鳥群、何かの発見の期待を持って実施しましたが、子育てが終わったあとなのか、野鳥の種類は少なかった。また期待したホトトギスにも会えずでしたが、野鳥の少ない反面、サギ群の飛ぶ様子をこと細かく観察できた。

●木曾岬干拓地探鳥会

2007年6月24日(日)9:00~12:00

弥富市・木曾岬町・鍋田干拓地・木曾岬干拓地

共催/日本野鳥の会愛知県支部・名古屋鳥類調査会

近藤義孝 米倉静 参加者12名

カワウ(50)、ダイサギ(4)、チュウサギ(2)、コサギ(3)、アオサギ(4)、カルガモ(35)、キンクロハジロ(1)、ミサゴ(1)、キジ(15)、オオバン(1)、コチドリ(1)、ケリ(40)、イソシギ(1)、コアジサシ(10)、キジバト(80)、カワセミ(2)、ヒバリ(20)、ツバメ(40)、ハクセキレイ(5)、ヒヨドリ(1)、オオヨシキリ(3)、セッカ(30)、カワラヒワ(1)、スズメ(20)、ムクドリ(30)、ハシボソガラス(150)、ハシブトガラス(30)、ドバト(10)。計28種

雨のため、参加者も少なかった。カワウが追い込み漁をし、その近くでダイサギが逃げてきた小魚を捕まえていた。

編集部よりお知らせ

編集部では支部報「しろちどり」の原稿を随時募集しています。鳥、自然、あるいは支部の活動について、文章でも写真でもイラストでも結構です。およせください。イラストや写真でまとめたものはアートギャラリーとして掲載します。

原稿はなるべく電子ファイルをお願いします。

原稿送付先 511-0123桑名市多度町北猪飼521 fwhy4368@mb.infoweb.ne.jp 近藤義孝

編集後記

「しろちどり」の編集は中勢地区から、北勢地区へ担当が変わりました。

4月に発行された「しろちどり54号」に続いて「しろちどり55号」は7月中には発行したいと思っていました。記事は集められない、編集作業がなかなか進まない、困ってしまいました。その様子を見て、多くの人に心配をかけてしまいました。

56号はもう少し計画的に発行できるように今から考えておきます。

Y.K

しろちどり 55号

2007年8月27日発行

題字: 濱田 稔

表紙絵: 平井正志

カット: 平井正志

編集: 近藤義孝

511-0123 桑名市多度町北猪飼521

発行所: 日本野鳥の会三重県支部

平井正志方

514-2325 津市安濃町田端上野910-49

http://www.geocities.jp/sirochidori_mie/

印刷: 東海出版